

弓削皇子、紀皇女を思ふ御歌四首

一一九番

吉野川 行く瀬の早み しましくも 淀むことな
く ありこそせぬかも

一二〇番

我妹子に 恋ひつつあらずは 秋萩の 咲きて散
りぬる 花にあらましを

一二一番

夕さらば 潮満ち来なむ 住吉の 浅香の浦に
玉藻刈りてな

一二二番

大舟の 泊つる泊まりの たゆたひに 物思ひ瘦
せぬ 人の見ゆるに